第 3 部

クローズセッション

【ファシリテーター】

今村　久美（認定特定非営利活動法人　カタリバ　代表理事）

小山　竜司（神奈川大学　理事長付特別審議役、
前まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官）

岩本　　悠（島根大学地域教育魅力化センター　地域教育アドバイザー、
島根県教育庁　教育魅力化特命官）

クローズセッション

ファシリテーター　今村　久美　氏
ファシリテーター　小山　竜司　氏
ファシリテーター　岩本　　悠　氏

○今村氏　では、再び壇上に上がらせていただきました。今から12時35分までの間、この教育フェスタの最後の時間をここで皆さんと過ごしたいと思います。改めまして、進行を務めます今村です。そして、小山さんと岩本さんにも一緒に全体の進行をしていただきたいと思います。

ここでは、今からここまでの時間、それぞれの会場でそれぞれお話し、「熟議」をされてきたかと思いますので、まずその「熟議」でどんなお話をされたのかということについて、幾つかのグループから発表をしていただきたいなと思っております。ちなみに、地域の皆さん、そしてＰＴＡの皆さん、学校の先生方には、各グループ、白い紙には、「これからの時代を生きていく子どもたちがどんな力を育んでいくべきか」ということが白い紙、ピンクの紙には、「そのために大人たちがどう変化していくべきか、どんな挑戦を大人たちはしていくべきだろうか」ということをピンクの紙に書いていただいているということで、よろしいですね。

では、皆さんに発表をしていただこうと思うんです。せっかくなので、ここで話したことをシェアしていただけるよという方、手を挙げていただけますでしょうか。

５番グループが挙がりました。ありがとうございます。何事も１番は不安かと思いますが、５番グループ。５番グループ、お願いします。拍手でお願いします。（拍手）

○大東小学校の柘植と申します。よろしくお願いします。

５グループで話し合ったこととして、これから必要な力として、情報リテラシー、自己肯定感、協調性、対応力、忍耐、探求力、調整力、発信力、行動力、課題解決発見能力、たくさん出たんですけども、やはり一番最初に出ていますが、情報リテラシーということで、情報を収集したり、実際にそれを活用したりするっていうふうに、今、子どもたちは教員に聞かなくても、親に聞かなくても、家にあるタブレット、またはｉＰａｄ、ｉＰｏｄ、Ｗｉ－Ｆｉ機能を使えば、自分で何かを調べられる時代に入っていますので、人に聞くということもまず大切だけど、その情報を活用する、情報を調べるという力が、まず大前提になってくるのではないかなと思います。やはり年齢を重ねてご年配の方からすると、そういうタブレットとか、何ていうかこう、今までなかったものが入ってくることに対して抵抗を感じておられる方もいるかもしれないですけど、もうそういう時代に入ったということを前提にして、しっかり今、社会がこういうふうに向かっているんだよっていうことを受け入れて、積極的に、例えば学校現場であったら、都道府県でもやっておられるようにタブレットを導入したり、電子黒板などを積極的に活用したりして、教員にはちょっと大変かもしれないですけども、何が子どもたちにとって必要かっていうのを見きわめて、積極的に教員が勉強して、ＩＣＴ活用、情報リテラシー等をしっかり勉強していくことが大切なんじゃないかなというふうに思いました。

ちょっとたくさんあり過ぎて、発表の時間がかかってしまいますので、ちょっと雲南市に特化した、これから私たちができることとして、地域の高齢者を巻き込んだ活動と、県外者を呼び込む活動、交流の場所、地域の世代を超えた交流ですが、まず一つ目の地域の高齢者を巻き込んだ活動で、私たち大東小学校は、祖父母会ということで、学校に高齢者の方に来ていただいて、実際にいろんなことをしていただいています。見通し、子どもたちが将来、地元で、都会

に出て戻ってきたときもそうですけども、高齢者になっても、年を重ねても、これだけ子どもに影響を与える場があるんだよ、これだけ発信できる場があるっていうふうに、年齢を重ねても自分の存在を証明できる場所があるんだなっていうことをわかる意味でも、この地域の高齢者を巻き込んだ活動っていうのは、非常に大切なんじゃないかなという話が出ました。

そして、県外者を呼び込む活動、交流の場で、先ほど飯南高校の発表を聞かせていただいて、非常に高校生の年代から県外の人と触れ合う、例えば方言であったり、自分たちが当たり前であったことがこんなにも違うんだっていうことを、高校生年代から感じられるっていうのは非常に大切なことだと思いますので、積極的に、その高校が取り組んでいらっしゃると思うんですけども、県外者を呼び込む活動、交流の場っていうのは大切になってくるんじゃないかなという話題が出ました。

最後の地域の世代を超えた交流で、これもちょっと大東小学校になってしまうんですけども、大東小学校で高齢者の方が来られて、子どもたちと楽しむ活動で演歌を歌われたんですけども、非常に楽しんで歌われたんですけど、その様子を見て子どもたちが何ひとつ、何ていうんですかね、ああ、演歌わかんないなとか、何歌ってんだっていう雰囲気が一切なく、わあ、すごいな、僕たちのために歌ってくれてるんだなとか、拍手を自然にできる環境っていうのは、やはり日ごろから高齢者を尊敬する気持ちだったり、年齢を重ねた人に何かを聞けば、知恵やありがたいことが聞けるんだなっていう環境が雲南市に根づいてるからこそ、こういう子どもの態度が出てくるんじゃないかなと思いました。地域の世代を、交流も超えた活動っていうのは、非常に大切なんじゃないかなというふうに思いましたので、そういう活動を学校側としても、行政としても増やしていくということが大切なんじゃないかなという話が中心に出ました。すみません、長くなりました。以上です。

（拍手）

○今村氏　ありがとうございました。

では、もう１グループ、お話を伺いたいと思います。今、とっても情熱的にお話をいただいて、本当にありがとうございました。手を挙げていただいてるグループ、何グループでしょうか。

じゃ、そちらのグループ、お願いします。

○21グループです。つけたい力は、社会や自分の周りと積極的にかかわる力、いろいろ自分が考えたことなどを発信したり、それから、いろんな人に自分から話しかけたりするコミュニケーションの力をつけていってほしいなと思います。それから、二つあって、もう一つは、自分を大切にして自分を伸ばそうとする力、自己肯定感の低い子が多いので自己肯定感を高めていけるように、それから、自分の力、自分はどんな力を持っているんだっていうことを、いい面も悪い面もわかって、自己理解をして、そして伸ばしていこう、いろんな方法を使って伸ばしていこうとする力をつけてほしいなと思いました。そういうことを話し合いました。

そのためにということで、他者と協力しながら課題を見つけて解決していく学習を、教室や校外で繰り返し行っていく。大切なのは失敗を恐れない、失敗して、どこで失敗したかなと考えて、また繰り返す、失敗して繰り返すということの積み重ねが大切ではないかな、そういう場を私たちが提供していかなければいけないな、黒板に答えを書くときに、これで大丈夫って周りで聞いてから書くんではなくて、書いた答えが間違っていても、それをみんなでまた学習し合っていける、そういう環境をつくっていけるといいなということを話し合いました。以上です。失礼しました。（拍手）

○今村氏　ありがとうございました。

実は、同じこの会場に高校生の皆さんも、

そして大学生の皆さんもお座りいただいてるわけなんですけど、岩本さん、そちらの会場のほうにいらっしゃったみたいなんですけど、彼らはどんな時間の使い方をされたんでしょうか。
○岩本氏　高校生と大学生はグループになって、地域の課題の解決策をグループの中でいろいろ考えてるんですね、木次線の問題だとか、空き家だとかですね。その上で、じゃ、自分はこれからどういう自分になっていきたいのか、そして、そういう自分になるために、まさに私にできることだとか、これからやっていきたいことは何かというのを、最後少し考えて終わりました。ちょっともしよければ、高校生からも、いいですか。
○今村氏　せっかくなので、そうですね、高校生や大学生の皆さんにも聞いてみましょう。
○岩本氏　そしたら、高校生で、ちょっと最後結論だけでいいです、自分は将来、こういう自分になっていきたい、こういうことができる、こんなふうな自分になっていきたいな、そのためにこういうことをこれからやっていこうと思いますっていうような、何かさっきのグループワークの最後、少しやったと思いますけども、あそこら辺をかいつまんで紹介してくれる高校生、ちょっと手を挙げてもらっていいでしょうか。
○今村氏　手が挙がりましたね。
○岩本氏　おお、いいっすね。（拍手）
　手を挙げただけで拍手をもらえる。すばらしい。
○今村氏　なかなかないですね、すばらしい。
○岩本氏　じゃ、30秒以内で、ちょっとお願いします。
○では、急いでいきます。三刀屋高校の中林です。
　最後の何をしていきたいかなんですけど、僕の将来の夢はシステムエンジニアなんですけど、システムエンジニアって、まずニーズがあって、そのニーズを受けて、自分が、僕が調べた中ですけど、そのニーズがあって、そのニーズを自分で受けて、そのニーズをどう解決していくのか提案して、そのシステムとかを、こっちが提案して発注していくっていうスタイルなんですけど、そんな中で、もっと地域とかかわって、地域にどんなニーズがあるのかっていうのを積極的に求めていって、そのニーズを解決できるシステムっていうのをつくれるような、つくりたいなという夢は僕にあるので、そういうことを一番最後に感じました。以上です。（拍手）
○岩本氏　ありがとうございます。
　ちなみに、その地域のニーズをちゃんと見きわめて、その解決策としてのシステムを構築していく、将来の自分になるために今からできることとか、やっていこう、意識していこうっていうことを、何かあえて一つ挙げるとしたら何ですかね。
○そうですね、地域の行事というか、地域のイベントに積極的に参加することによって、その地域で何をやってるかっていうことがわかって、逆に何をやっていないかっていうことが、そこでわかると思うので、そういうところをやっていこうかなと思います。（拍手）
○岩本氏　ありがとうございます。
○今村氏　先ほど、先生方の発表の一つ目のグループでも、ＩＣＴを使いながらいろいろなテクノロジーを駆使していく子どもたちを育てていくという視点を持つということが大切だという話がありましたけど、本当に地域と行き来をすることで課題を見つけていくという力を育みながらも、最新のテクノロジーを駆使して、新しいソリューションを生み出せる人材になりたいっていう、本当に雲南ならではのシステムエンジニアの形なのかもしれないという希望がある話だなと感じました。
○岩本氏　いいですね、やっぱり現場にちゃんと足を運んで、自分で体験しながらっ

ていうところ、本当いい姿勢だなと思いました。

じゃ、あと大学生、さっき聞いたＣＯＣ人材育成コースの第１期生、ちょっと同じ質問です。自分は将来こういうふうになりたい、そのために大学時代、こういうことを頑張っていこうと思ったっていう、ちょっと紹介してくれる人。

○今村氏　女性の。

○岩本氏　はいはいはい、お願いします。

○今村氏　女性の学生さんから。（拍手）

○島根大学１回生の瀧川七海といいます。私は、今回のワークショップを通して思ったことは、高校生が当事者意識を持って地域にかかわっているなっていうことがすごく伝わってきました。だからこそ、私はこれから大学生としてやっていきたいことは、そういう高校生たちの一番の応援団でありたいなっていうふうに思っています。高校生と大学生、私本当に高校３年生と１歳しか違わないので、年も近いので、そういった高校生が地域でこういう活動していきたいんだけどどうしたらいいかなっていう悩みだったりとかを一緒に考えていったりとか、もしくは大学で学んだ専門知識をそれこそ高校生の活動に生かしたりだとか、そういうことをしながらも、そういう高校生に雲南市のことをむしろ教えてもらうことも私はできると思っているので、そういうふうに高校生の一番の応援団になっていきたいなというふうに考えています。きょうは本当にありがとうございました。（拍手）

○岩本氏　ありがとうございます。

島前高校の卒業生でしたね、今ね。

○今村氏　ちょっと自慢しましたね、今。

○岩本氏　ちょっとだけ、すみません。何かちょっとうれしくて。

○今村氏　立派でした、確かに。

○岩本氏　それで、もう一人だけいいですか。さっき学生ちょっと見てたら、教員志望できょうこの場に来てる人たちが何人かいたと思うんで、教員志望の人の中でちょっと、自分はこういうふうな教育者になりたい、そのためにこれからこういうことを意識していこうと、やっていこうと、ちょっとそこら辺を、さっき大先輩の先生たちがいい発表してくれたので、それに続く島大の教員志望の学生さん、ちょっとお一人。

お、いいね、じゃ、ちょっとお願いします。（拍手）

○島根大学４年生の小林大輝と申します。この春から、広島県において正採用で先生をさせていただくことが今決まってますので、それも見越して話をさせていただきたいなと思ってます。（拍手）

○今村氏　広島にいい人材が。

○ありがとうございます。僕は、さっきのワークショップの中で、アンパンマンみたいな先生になりたいっていうふうに書かせていただきました。アンパンマンっていうイメージって、やっぱり勇気を与えたりとか、バイキンマンみたいなやつをやっつけたりっていうイメージがあるんですけど、僕の中でやっぱり夢を持って頑張るとか、その夢を描くために必要な材料を子どもたちに見せてあげる先生になりたいなと思っています。今すごく考えてるのは、やっぱり格好いい大人に出会うっていうことがすごい必要だと思ってて、これが目標を持って頑張ってることなんだとか、こんなふうになってみたいなっていうことを学校の中に持ち込んでいける、そういった先生になりたいなと考えています。以上です。ありがとうございました。（拍手）

○岩本氏　ありがとうございました。

ぜひ広島、嫌になったらいつでも島根に帰ってきてもらって大丈夫ですので。

○母ちゃんとけんかして広島に帰らないといけなくなったので。じゃ、ぜひチャンスがあれば、隙あらばという感じで帰ってきたいと考えています。

○岩本氏　そうですね。また広島でも島根で育ったことを、島根で学んだということ

を、ぜひ広げていただけたらと思いますんで。
○はい、もちろんです。ありがとうございます。
○岩本氏　ありがとうございます。
○今村氏　保護者の方から何か、議論をした内容でもいいですし、今のお話を聞いていて、こんなこと思った、あ、どうぞどうぞ。今、手が挙がりましたので。（拍手）
○これから生き抜く力とか、それに向けて親がどういう姿勢を見せるかということを話してきたんですけども、生き抜く力を発表せえと言われて、書いたことが生き抜く力っていう、何ともちょっと大変なグループなんですけど。要は、自分で物事をちゃんと考えられることであったり、考えたことを発信できる子どもであってほしいとか、あと、すてきな笑顔を見せられるとか、ちゃんと自分の居場所を見つけられるとか、挑戦する力、そしてそれを突破する力っていうのを、ひっくるめたら結局こういう言葉になっちゃったっていうのが、うちのグループの結論です。
　そのために何をするかということについては、例えば親自身がわくわくすることとか、成功体験を子どもに経験させてあげなきゃいけないよねとか、古きよきもの、昔の人の持ってた知恵とか、地域の文化とか伝統とかっていうのを継承していかなきゃいけないとか、そういうこともあったり、あと人とのつながりをつくる機会をつくっていってあげきゃいけないということがあったんですけど、結局、親がそれを本当に今ちゃんとしてるのっていう、自分のこと振り返ってみると、結局自分自身が大丈夫なのかなっていうところがあって、親の背中も見せなきゃいけないんだけど、結局、家庭の中に、自分も一緒に体験したり、経験したり、楽しんだりっていうことをしていきましょうということがあって、地域の行事だとか学校行事だとかっていうところに、親も一生懸命やってる姿を子どもと一緒にやりながら見せるということをしていかなきゃいけないな。その過程の中に絶対必要なのは「直会」（なおらい）だなということで、うちのグループは落ちついて、まず、行事の「直会」を大切にしながら、子どもとの接点を増やしながら、地域の中で子どもを育てましょうという、そういう感じになりました。（拍手）
「ノーナオライ・ノーライフ」っていうことで。
○今村氏　「直会」って、外から来た方々がわからないと思うので、ちょっと解説をしていただいてもいいですか。
○「直会」っていうのは、もうすぐ神在月ですけども、「神様が出雲に集まって、いろんなはかりごとをして帰られるときにやった宴会」のことを「直会」と言い始めたようですけども。
○今村氏　語り合うことが大切だということですね。
○はい。結局は酒飲んで、ていう感じです。
○今村氏　語り合うということですね。「熟議」が大切だということですね。ありがとうございました。酒って、酒です、やっぱりね。でもちょっとこれ教育の場なので、ちょっとあれかもしれないですけど。
　ということで、楽しい時間もあと数分になってまいりました。小山さん、ここまでの、総括といいますか、ここまでのお話を聞いていて、コメントをお願いいたします。
○小山氏　昨日も入間の交流センターでとことんの議論に参加させていただいて、今日、この午前中、皆さんのご議論の様子を、あの後ぐるっと見させていただいた後、ちょっと外の空気吸いに出てみたら、すてきな親子連れに会って、この話聞いていただいてたようですけども、これからの国の方向とか、地域で自分たちで考えるとか、何を豊かって考えますかねなんて話をしてたら、ちっちゃな女の子が、１、２歳ですかね、お父さん、お母さんと私が立ち話してたら、とととって寄ってきて、これくれて、

おじちゃん、はいって、松ぼっくりかな、だめですね、そういうのもとっさにわからないおじさんは全然役に立たないけど、ああ何かいいね、ありがとうって言ったら、あっちにあるよとか言ってくれて。だから、この子たちがきょうは雲南で、日本中のいろんな地域で、これから教育を受けて巣立っていく世の中ってどうしていくかね、その地域社会を大人たちはどう守り、つくっていくかねっていうのを、やっぱり地域ごとの議論だし、例えば、今、雲南でとっても豊かな環境ですくすく育っているお子さんたちを、さあ、これから世の中でどう迎えるかねという、何かとっても大切なものをいただいたんでうれしくなって、きょう、今、皆さんのご議論に出てたような話こそが肝だと思いますし、オープニングでも話出てたように、それこそが最先端であって、考えていくべき、追い求めるべきフロンティアはここにしかないのですから、皆さんの日常のお悩みを、大人も子どもも議論し合うということが、今後も大事なんだろうなと思って、ちょっとご紹介させていただきました。今日は、本当にいいお話をいろいろ聞かせていただいて、ありがとうございます。

○今村氏　岩本さんもコメントお願いします。

○岩本氏　そしたら、僕、二つあるんですが、一つは、先ほどの情報リテラシーの話なんかもそうですし、「直会」もそうですけど、こういう場でいろいろやると、やっぱりこれが大事だ、もっとこういうことをやっていこうってたくさん出てきて、本当に大事なことなんでやっていくべきだと思うんですけど、そのときに大切なことをどんどん積み上げてくと、今でさえ大変で、学校も多忙で、先生たちすごい一生懸命やってる中で、もっともっとというとやっぱり大変になってくる、その中でやっぱりこれからもう一つの視点として考えていったらいいかもしれないなと思ったのが、今、学校でされてることなんかも、やっぱり仕分けしていくというか、本当に学校の教員だけで絶対にやるべきことは何なのか、逆に地域と一緒にやったほうが、もうちょっと効果的にできることって何かなとか、あとは、これ、地域がやったほうがいいこととか、家庭でやれればいいしみたいな、地域側でもっとやっていくべきことだとか、もうちょっと再編していくというか、業務をですね。やっぱりそこで生み出したゆとりを、ちゃんと「直会」の時間に使うとか、これからＩＣＴのやっぱり導入してやっていこうという中で、そういう時間に使うとか、ちょっとそういう、やらないということよりは一緒にやっていくとか、誰かほかと連携しながらやっていくとか、それを任せていくとか、組みかえていくとか、ちょっとそういう作業もあわせてしていかないと、していかないとというか、したほうが多分気持ちよく前に、その時代の変化とか、社会の変化とかに向かって動き出せるような学校組織になっていく、もしくは学校と地域の関係になっていくのかなと思ったというのが一つ目です。

二つ目は、高校生と大学生のほうで、あの話聞いてて、僕本当、さっきの発表なんかもすごいなと思って聞いてました。ただ、一方で、自分はこれからこういうふうになっていきたいとか、これやっていきたいっていうのが書けなかったような高校生もいたと思います。僕はそれ全く心配する必要がないというか、書けなくて当然だと思ってもいいし、書けない自分がよくない自分で、自分は全然キャリアが見えてなくてとか、これからの夢がないからだめなんだと、そんなこと思う必要性は一切ないと思ってます。これから別に夢とかなんとか見えなくたって、今、目の前にあることに誠実に向き合って、それをちゃんと乗り越えていくとか、課題見つけて解決していく先に、また未来は開かれていくし、逆に書いた人も、ちゃんと自分はこうなりたいとか、こ

ういう未来の自分の職業につきたいんだとかって書いた人も、それにあんまり固執する必要は、全くないと思ってます。これだけ、先ほどの話も、いなかったとき話したんだけど、職業とかどんどん変わっていく、時代が変化していく中で、自分の夢とかやりたいことも変化して当然です。今の自分がそう思ってるだけで、今の自分がもっと成長すれば、夢だってやりたいことだって変化、成長して当たり前ですので、そういう意味では、変化することを恐れることなかれと、そういう時代です。変化を楽しみながら柔軟に自分を、変化を楽しみながら向かっていくというような、何かそういうしなやかな生き方もあるんだということを頭の片隅に置いといてもらえるといいかなというふうに思いました。以上です。

○今村氏　あれですかね、今正解とされてるものを、もしかしたら大人も一回手放す必要があるのかもしれないですね。本当に劇的にこれから日本の教育が変わる準備を文科省さんはされています。相当変わるということを一応文科省さん的にはうたっている中で、もしかしたらどう変わるのかというと、今ここでこのように地域の中でどう子どもたちを育てていくんだろうとか、徹底的な暗記をさせるではなくて、そのむしろ一つ覚えた年号の裏側にあった背景をもっと理解することが、雲南の今を理解することと実はつながっているということかもしれないとか、そういうことを考える教育に日本がどんどん変わっていくかもしれないと。それはもしかしたら、この雲南市の中で悪戦苦闘されながら、「夢プロ」とかいろいろなものを実践されてる先生方の一つ一つのご努力が、今の卒業生たちの発信にもつながっているということを、日本が学び、そういう新しい変化を向かえようとしているぐらいの捉え方をしていただいて、ここからの変化を一緒に楽しんでいけると、大人自身がですね、いいのかななんてことを思いました。

教育フェスタもこの時間で、これをもって終了です。まずは、おいでいただきましたお二人に大きな拍手をお願いいたします。（拍手）

今日、一緒に「熟議」をされた、そして、大学生、高校生一緒に議論をされたお互いに拍手をお願いいたします。（拍手）

ということで、変化を楽しめる雲南市、そして島根県をこの場所からつくっていくということで、きょうはこの場を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

○（司会）　会場の皆様、熱心なご討議ありがとうございました。

そして、小山様、今村様、岩本様、改めてお礼申し上げます。会場の皆様、今一度大きな拍手をお願いいたします。（拍手）

本日は、包括的に連携する雲南市と島根大学が、連携、協力して地域づくり、人づくりを進める機会として、「雲南市教育フェスタ2016」「平成28年度大学改革シンポジウム」を共同で開催いたしました。

島根県は、さまざまな地域課題を持つという意味では最先端の地域であり、だからこそ学びの場も多く、豊かで多様な学びを授けてくれる地域であるとも言えます。この地域でつながる縁を持った本日の参加者一人一人が、これからも私たちの現在と未来に向き合い、ともに考え、ともに課題を解決し、この地域から持続的に発信することができるようにつながりを持って行動していけることを願っています。

以上をもちまして、「雲南市教育フェスタ2016」並びに「平成28年度大学改革シンポジウム」を閉幕させていただきます。

本日は多数のご来場、まことにありがとうございました。

付　録

○参加者数

○事後アンケート結果

※高校生・大学生の回答結果（「高校生と大学生のワークショップ」について）は、第２部に掲載）

○シンポジウムポスター

○当日配付パンフレット

○新聞掲載記事

○ご協力いただいた方

平成28年度大学改革シンポジウム　参加者数

（島根大学集計分）

区分		人数
国立大学協会		2
文部科学省		2
島根大学		55
	教職員	26
	大学生	29
高校		71
	教員	9
	高校生	62
報道関係		4
計		134

（雲南市集計分）

区分		人数
雲南市教職員		229
雲南市PTA/地域関係者		58
雲南市外		50
	文部科学省	6
	島根県教育委員会	9
	その他	35
雲南市内		63
	行政	15
	スタッフ	38
	カタリバ	10
計		400

合計　534名

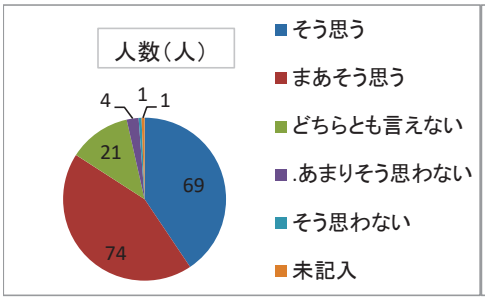
平成28年度　大学改革シンポジウム　事後アンケート結果　（平成28年10月16日(日)実施）

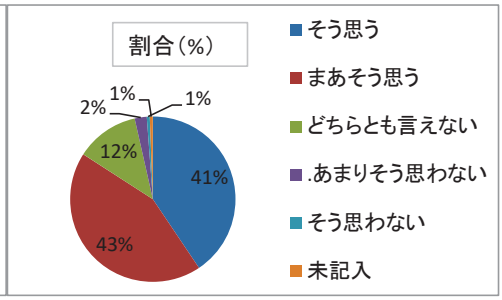
設問1．このイベントを通して，どのようにお感じになられたか，あてはまる番号に〇をつけてください。

回答者の属性	
雲南市民	5
保護者	9
市内　小学校教職員	96
市内　中学校教職員	43
高校教職員	2
大学関係者	8
県内　教育関係者	2
県外　教育関係者	3
その他	1
未記入	1
合計	170

①　地域を学びの場として次世代の人材を育成することができると思う。

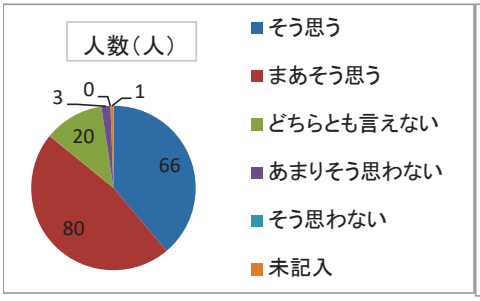
回答	人数
そう思う	69
まあそう思う	74
どちらとも言えない	21
.あまりそう思わない	4
そう思わない	1
未記入	1
総計	170

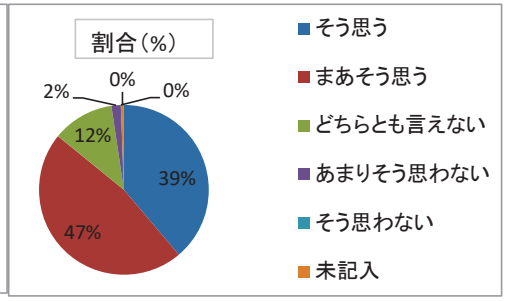




②　地域の中で，多様な主体（学校・地域住民・保護者・NPO・行政など）が連携，協働することができると思う。

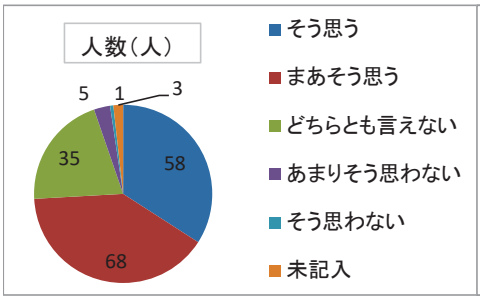
回答	人数
そう思う	66
まあそう思う	80
どちらとも言えない	20
あまりそう思わない	3
そう思わない	0
未記入	1
総計	170

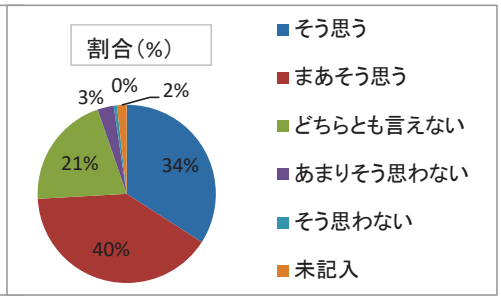




③　高校での地域課題に関する学びを大学でより高めることができると思う。

回答	人数
そう思う	58
まあそう思う	68
どちらとも言えない	35
あまりそう思わない	5
そう思わない	1
未記入	3
総計	170





設問2. このイベントを通じ，心に残ったこと，キーワード，考えたことなど自由にお書きください。

雲南市民、保護者の方から

・高校生でも社会を変えられる。地域について考え，研究すると，大学進学についてより具体的に進路が決められる。
・高校生の時点で地域のことを考えることをやっていることに感動した。
・ファシリテーターの重要性。
・子供達の将来の力。
・学生の発表がすばらしい。
・自主。

小学校教職員の方から

・自分が高校生や大学生の時にそこまで住んでいる地域の現状に関心がなかった。今の学生さん（一部だとは思うが）には，これから長い時間ゆっくりと確実に地域に貢献してほしい。自分にできることも少なからずあるはずなので，考え，実行していきたいという想いは芽生えた。
・失敗を恐れず継続していくこと。
・JA等の農業関係者，森林組織の材木関係者，商工業関係者，地域自主組織関係者等，地域産業を支える方の参加，発表を強く望む。
・（設問1.③で「2」を選択したことについて）大学では専門に特化するため，学生の希望をどれくらいかなえることができるのか，また，指導を受けることができるのか疑問がある。
・飯南高校生の取組は，高校生らしくて，シンプルであたたかみがあって，ステキな実践と思った。
・地域の子どもをどう育てていくか，将来に向けての学校の取組みについて考える機会となった。
・つながり。自分が育った地域，学びの場である地から自分の出身地を考えることはとても大切，すばらしいこと。そして自分にできることを考えること→実践化につなげること。
・高校生の柔軟な発想に驚いた。異校種・異学年の交流の場があり，地域に生きる・働くことがより現実的になると思う。
・高校と大学の地域課題に関する学習（活動）を関連づけたり，連携して進めたりすることができるとよい。
・飯南高校の発表で他県から，多くの生徒が来ていることに驚いた。地域の魅力を高校生が伝えていくことで，これから，地域の活性化につながってほしいと感じた。
・ただなんとなく日々をすごしている学生にとって，日々の生活や想いを振り返り，それが進路や将来の目的につながっていくということに気づくことができるよい機会になったと思う。
・地域と自分。地域のために，それがそのまま自分のためになる関わりを作っていくことが，一番大切だと改めて感じた。
・大学生や高校生の学びの質のよさ，高さ。
・「行動力」がキーワードだと思いました。そのエネルギーとなるものはこのようなセミナーに参加して，様々な方とふれ合うことで得られる「熱」だと思いました。
・キャリア教育の大切さ。目的意識をもって取り組むことの大切さ。
・主体性。
・多様な学び。「正解を変える」。
・高校生の取り組みの発表がとてもよかったです。
・自分の地元の好きなことが言える子どもたちを育てたい。
・高校生・大学生の参加があり，明日につながるシンポジウムだったと感じることができた。
・高校生や大学生の発表を通して，未来に希望を感じました。また，地域との連携をもう少し強めていきたいと考えました。
・それぞれの場で取り組みがなされていて，すばらしいと思いました。この取組みをどのようにつなげ広げていくかが今後の課題だと感じました。
・「志を果たしに，いつの日にか帰らん」というフレーズが心に残りました。一度他県に出ることがあっても，そこで学んだことを地元へ持ち帰り，地元の活性化に貢献することの大切さを感じ，そういう子どもを育てなければいけないな…と実感しました。
・高校生の発表が立派でした。
・自分のことを語る。
・飯南高校のプレゼンがとてもよかった。すてきな高校生を見て自分も何かチャレンジしてみたいと思った。
・高校生，大学生の参加があって良い。
・高校生でも若者でも地域を元気にできる！
・これから人口減少，高齢化社会が加速度的に進んでいくこと。今ある職業の半分以上がなくなってしまうこと。高校生が地域のために貢献しようとする姿勢がよかった。
・高校の取組みを興味深く聞かせてもらいました。
・高い志を持った若い人材が育っていることを，本当に頼もしく，また，中年世代の私もがんばらねばという思いになりました。あと，都会から島根の高校に進学し，今日のような場で，自由な雰囲気を持って発表する姿に，深い感銘を受けました。
・高校生や大学生が地域にでかけ，良さをみつけることを積極的に行っています。どんなことをしているのか知れるいい機会になりました。若い人たちの作る未来の町が期待できます。
・初めて雲南市に来て働いている自分にとって，魅力のある市であると感じました。このような機会があることが素敵だと思いました。
・学生さんたちが，地域について真剣に考え，行動を起こしていることに感心しました。”チャレンジ”大人にも大事なことだと思いました。
・県外から飯南高校への入学大変ありがたく思います。そしてプレゼンも上手でおどろきました。県内高校生も学ぶべき点があるのではないかと感じました。お互いの良いところを吸収しあえる場があれば刺激になると思います。
・島根県外に出ることや，色々な経験をすることで自信につながると思った。
・地域に貢献。
・「高校生でも社会を変えられる」。（2）
・「高校生でも社会を変えられる」力強く語り自分の言葉で伝えておられ，とてもすばらしかったと思います。
・主体性。
・高校生の時から，課題意識をもち，一歩ふみだすこと，体験をして学びに生かすことができるんだと。地域のことを自分自身もっと知ること。参加して，つながりをもつことが大事だなと感じた。
・仕事をつくりに帰る，志を果たしに帰る，の言葉が心に残りました。これからの時代はまさにふるさとで，地域でいかにいきていくか…が大切だと思いました。学校でも，こういう話ができれば…と思います。

・地域の高齢者を巻きこんだ活動
・もっと大学生や高校生がいるといい。こんな会こそ考える場として学生に開いてほしい。昨日のダイジェストが見られるとおもしろいと思う。学生の発表も良かった。
・地域の活性化。（でも実際雲南の方，特にお年が私（55）以上の先輩方のパワーはすごいです）
・地域貢献がしたいという強い意思。コミュニケーション能力。子どもを支えるバックアップ
・高校生，大学生が「地域」を大切に思い，「地域」で生きていこうとしていることが心に残った。
・高校生や大学生がすばらしい取組を行っておられることを知って，驚きました。
・高校生，大学生が地域に向けて発信している姿に感動した。たのもしかった。もっともっと，まかせることが大切だと感じた。
・飯南高校の生徒の発表がとても上手で驚きました。自分たちで企画し，自信があるからこそ，あそこまで堂々と発表できると思いました。生徒の自主性を大切にした活動の大切さを学びました。
・飯南高校の生徒さんが動画が出ないというアクシデントにもかかわらず，自分たちでつないで活かせて，すばらしかった。こういう力が備わっていることが大切かと思う。
・高校生と大学生のワークショップにおいて，課題について，真剣に考えている若者の姿は素晴らしいと思うし，このような機会は，重要であると思う。
・キャリア教育の充実。関係機関の連携。
・高校生，大学生が地域に出かけ，課題をみつけ，解決していく姿は，とてもたのもしいし，社会を変えていく力をもっていると思う。
・飯南高校生の発表に感銘を受けました。
・高校生や大学生さんが強い志をもって，学び・活動していることに大変おどろいた。熟議では，育てたい力を考え，色々な意見を学ぶことができた。

中学校教職員の方から

・自分の高校，大学時代のことは全く参考にならない。子供達の自立こそが，子供達の未来につながっていくと思う。
・地域でつながる。
・高校生の学び，特に飯南高校の発表で，高校生がつくるサマースクールがよかった。若者にまかせるところはまかせる町の姿もよい。
・飯南高校生の主体的な活動発表がすばらしくて驚きました。大学へ入る前に，地域との関わりまで考えていて，今の高校生・大学生は将来を担う力があると感じました。
・今回のような，活動の（話し合い）内容を広く伝え，実際の行動につなげていければと思いました。特に高校生のように若い世代の思いを聞けると，パワーとなると思います。
・地域の未来を考えること～自分なら何ができるか，行政なら何ができるか（未来像に向けて，具体的に行動すること，そういう人材をたくさん育てていくこと…）これらを，子どもたちの授業の中で育んでいけたらと思う。
・変化を楽しむ。
・地域。
・”社会は変えられる”。
・人づくり＝地域づくり。キャリア教育，とても大事だと改めて感じた。
・貢献。よりよく生きる。
・高校生も社会を変えられる。
・持続可能な社会を築くための方策の答えは地域にある。
・高校生，大学生が地域のことを一生懸命考え，何とかよくしようと知恵を出し合っている姿に感心しました。これが思いつきだけでなく，少しずつ実現していくといいと思いました。
・殻を破ること！チャレンジ力。
・自分の言葉で自分たちが企画・行動した飯南高校の発表がとても印象深かったので，もっと広く，中学生，高校生にも聞いてほしいと思いました。
・地域と世界。
・高校生，大学生の発表を聞き，改めて地域の課題について見つめ直すことができ，非常に有意義だった。
・地域に出る。チャレンジの連鎖
・雲南市の取り組みがすばらしいと改めて感じることができました。
・つながる力。つなげる力。
・熟議で皆さんと話すことで多様な考えを知ることができ，有意義な学びの場となった。
・答えは地域にある。理想を話し合って共有する時間が年に1回あっていいなど感じました。
・飯南高校のトラブルにすぐに対応できる力が立派だと思いました。県外出身者だそうですが，今後も活躍してほしいと思います。そして，島根県の良さを広く伝えてくれるとうれしいです。
・地域の中で活動し，貢献しようとしている高校生や大学生の姿が大変よかったです。教員もそのような意識や行動力を持ちたいと思いました。
・主体的に地域と関わり，地域を元気にしたいという高校生や大学生の姿勢に心をうたれました。

高校教職員の方から

・志を果たしに、ふるさとに帰る。

大学関係者から

・高校・大学卒業後の人材流出を最小限にするための行政側の方針等も知りたい。
・雲南市の長年の努力に敬意を表します。
・高校生と大学生のワークショップで，高校生の発想力，企画力，まとめる力，発表（プレゼン力）に触れることができ，思った以上に力があることが感じられた。

県外の教育関係者から

・教育はできると思うが，それが地域の発展につながるかは疑問。島大も7割は県外生だということだし，ということは高校生も県外に出ていると思う。教育を地域発展につなげるには，県の将来像，グランドデザインが必要だと思った。
・日本のこれからの課題を先取りしている気がする。がんばって欲しい。（本町も大いに参考としたい）

設問3. 地域に貢献する人材を育成するため，島根大学に期待することがありましたら，自由にお書きください。

雲南市民、保護者の方から

・このような活動をぜひ全国，世界にも発信して欲しいです。
・地域自主組織が行っているイベントへの参加（継続してお願いしたい）
・COCの事初めて知りました。今後も継続していかれることを希望します。
・地域にどんどん入ってきてください。新しい風を入れてください。

小学校教職員の方から

・どんどん地域に（行事など）に派遣してほしい。
・小・中学校へボランティアで来ていただくといいかなと思います。
・医療，教育，どの分野でも，人格の形成が大切。人として，誠実さ温かさをもった人材をまず，大切に育ててほしい。
・学生の希望をかなえる大学の体制作り，丁寧な聞きとりをしてほしい。
・大学卒業後の進路（就職先）に結びつくような人材育成，就職先の開発，紹介
・本日のような機会をとおして，小・中・高の子どもたちに学生からよい刺激を与えてほしい。
・地域との連携を図っていってほしい。（実情，展望等）
・自分の出身地のよさ（魅力）を再確認する機会を設けてもらいたい。学生・先生方等で議論してもらいたい→将来の生き方を考える場に！
・地域貢献の取組を学内だけでなく，それぞれの地域へ返して（発信）もらうとよい。教育学部の1000時間体験とCOC人材育成コースの活動が関連づけて行われるとよいと思う。（COC人材育成コースの学生）
・オープンキャンパス以外でも，島大の魅力を発信していく。（大学生を高校に派遣し，プレゼン）
・地域にも情報発信をしてほしい。一番目にするのは学校だよりです。飯南町在住ですが，小学校，中学校，高校だよりは必ず目を通しています。
・COCに対して非常に関心を持っている子は多くいます。できるだけ多くの子に学びの場を開いてほしいと思います。
・大学の取組をさらにアピールするとよい。
・島根に残る人材育成。（惰性ではなく積極的に）
・島大生は本当によく雲南市に来てくれていると感じます。今後もそのような場が多くあり，雲南の子たちにナナメの立場から良い影響を与えてくれることを期待しています。
・地域枠が多くあるのは，地域・地元の希望です。（特に医師，看護師）ぜひ，つづけていってください。常勤医師不足は，島大の力で何とかしてほしいです！期待しています。
・今日のようなワークショップもいい。加えて，実体験を通して共有し，思考できるようなワークショップ活動。中・高・大のグルーピングで行うワークショップや活動。1回きりでなくて，年間を通して行うような企画。大学がつなぎになって石見地域，出雲地域，隠岐地域の県内の広い地域の高校生，中学生が出会って交流できる企画。
・教育学部に所属していました。1000時間体験が大変有意義な取り組みだと思います。学校機関だけでなく，地域の行事・取組にどの学部でも参加できるようなカリキュラムや，大学からの地域（ふるさと）イベントの企画・運営の充実が図られていくといいと思います。
・様々な活動が学校であるのですが，気軽に見に来たり，参加してくださるといいな…と思います。ただ，（大学から）少し遠いのでなかなか来にくいのも課題だと思います。
・地元への就職を！！
・応援しています。
・1000時間体験は，大学生にとっても地域にとっても良いシステムだと思う。今後も続けてほしい。
・これからも，地域に出かけての課題解決的な学習を大切にしてほしい。
・島根の地域課題を解決するために何が必要かを研究し，それを学校に広げてもらいたい。大学入試で地域貢献枠の推薦があるとよい。
・地元出身の高校生を合格させるための枠を設けてほしい。
・地域の伝統行事に関わる体験をさせて頂ければと思います。地域の伝統行事を通じて，見えてくることがたくさんあると思います。行事の担い手の問題，地域の歴史や生活文化，地域の人どうしのつながりなど，伝統行事を通じて，地方，特に山間地域にある社会問題が縮図として見えてくる中で，課題意識を持って行動できる人になってもらえればと思っています。
・大学でのとりくみの発信。
・COC人材育成コースの魅力を知ることできて良かった。
・地域にとどまる，あるいは定住する人材を育ててほしい。
・地域に帰り，山陰で働く，住むことを目的として，学生を募集し，学科をひらかれていることは興味深いし，地域にある大学として，良いと思った。活躍できる学生を育ててほしい。
・小・中学生にパワーを生み出せる学生を育ててほしい。私は文系ですが，地域の文化（音楽・芸能）を大切にしていってほしい。
・私は教育学部出身です。1000時間体験学修はぜひ続けていってほしいと思います。特に，様々な学校へ行くこと（大規模，小規模，異校種…）いろいろな経験をした学生さんは，社会に出てすぐ働ける，即戦力になると思います。
・育成した人材が実際に地域に残れる，地域で働けるような場づくり，ルートづくり
・学校の活動にどんどん入りこんで，ボランティア的な活動に積極的に取り組んでほしい。
・小学校，保育園等のボランティアを推進してほしい。3，4年生の最後（セメスター？）だけでなく自主的に行ってほしい。私自身学生の頃（県外でしたが…）ボランティアで小学校へ行かせてもらい，今とても役に立っている。
・地域貢献する人材を育成するために①地域を知る（出かけて），②地域の人々に出会い，思いを把握する，③課題を考える，④解決するためにできることは何か考える　※大いに期待しています。
・地域に貢献する人材を育成するためには，大学の門戸を広くする必要がある。受験体制，大学の施設、教員数等の問題はあるが，ぜひ，定数の増加をお願いしたい。
・専門性を高めてほしい。第一人者の育成。（島大の○○先生，△△研究室を全国区に，世界レベルに）専門家，第一人者が多岐にわたり数が増えればなおよいと思う。
・ルールを守れる学生の育成をお願いします。
・島根大学でしかできない活動，都会では学べない，地域に密着した活動をしてほしい。そして，それぞれの市町村をさらに魅力のあるものにするために，活動をしてもらえたらと思う。
・活動，体験ありきの気がします。もう少し，現代の問題とか専門的な体系化された学問の追究が必要だと思います。ワークショップでの，高校生の発言とあまり変わらない，というところに危機を感じました。大学の生き残りのためかも知れませんが…。

中学校教職員の方から

・COC，とても有効な制度だと思います。学生が，”県外が7割”と言われたことも驚きでしたが，今後も大学が”地域”に出向いてPRしてもらいたいし，県外者が，島根に根づくことも有効であると思うので，島根（山陰）を活性化するための人材を育てている，という意識をもってほしいこと，地域の企業，産業と密に連携し，されていることをまた，地域に発信してほしいと思います。”研究”も大切にしながら。
・高校で地域とかかわる活動をたくさんしてきた生徒が，県外の大学に流れたり，あるいは島根大学に入れなかったりといったことがないようにしてほしい。大学の地域とかかわる活動も，文科省の「査定」に入ったりするようですが，地域の活性化につながる事業・教育を展開してほしい。一方で，古い考えかもしれないが，いわゆる偏差値的な，教育の質も維持向上させる努力もしていってほしい。
・広い県内各地域ともっとつながる教育をしていただきたい。
・高校で学習したことが生かせるよう連携をしっかりとってほしい。学生を地域としっかりと結びつけ，これからの地域課題が解決できるよう，大学側も地域としっかりと連携してほしい。
・高校で養った力を伸ばしてほしい。
・大学の在り方が大きく変わりつつある中，島大においても時代に即した取組みが行われています。娘も貴校を卒業し，県内で教職に就いています。息子も貴校で学び教職をめざしつつあります。1000時間体験はいいことだと思います。島根の子が地元の大学で学びたいともっと思って欲しいです。
・地域に出掛けていかれる際に，短期間だけでなく，長期で関わっていかれるとよいのではないでしょうか。
・COC人材育成コースの新設には期待しています。中学生にもその取組について紹介したいと考えています。
・地域にとけこめる人材育成。
・地域との積極的な交流。学生を地域に力強く押し出すこと。
・基礎研究に力を。
・今後も地域に密着した活動を継続していってほしい。
・学生の時から一貫して，「地域」を意識した学びを積み重ねている現状に正直驚きました。机上の学習だけでは得ることのできない生きた学びを得ることができていると思いました。地域に残って貢献することも大切なことですが，一方で，住む所を限定せず，力を発揮する人材を育てることも必要なので，一方に偏らない人材育成を期待します。
・県外からの学生が多いということなので，県外出身者にもぜひ，島根に永住してもらえるように，サポートしてあげてほしいと思います。
・公共施設にたくさん出向いて，体験してほしい。
・地域で特に不足している医者や薬剤師の育成に力を入れて欲しいと思います。新しく学部をつくることは大変に難しいとは思いますが，地域の大学だからこそ，期待しているところです。また，医者の育成については，地域枠の学生には，是非，県内で活躍してもらいたいので，何か少し条件をつけてもよいのではないかと思います。
・島根大学の学生さんには，カタリバや幸雲南塾で大変お世話になっていて，また，その真剣な姿に感銘を受けています。これからもこのような学生の活動の場や機会を増やしてほしいです。
・地域に積極的に関わる場を多くつくってほしい。

高校教職員の方から

・地域に貢献したい人材を育てるならば，地域とは全く関係のない所を見ないといけない。また，「問題」の解決を目的にしている所しか見えてこないため，どんな世界観を築きたいかを考えるべきだ。

教育関係者から

・教職員，学生など島大にかかわるすべての人（OB，OG，親などを含む）が，島大の価値を伝えてください。
・雲南など成功されている地域もよいですが，もっともっと苦しい現状のある地域でフィールドワークを学生さんと来ていただきたいです。
・地域のグランドデザインを描ける人材を育ててください。

設問4. その他，お気づきになった点，ご感想等お願いいたします。

保護者の方から

・昔，今の考え方の違い。”志を果たして””志を果たす”なるほど…と思いました。その志を持った人がたくさんになればこの活動はすばらしいものになっていくと思います。
・ずっと地域にいると見えなかったことも，外から見て，改めて言ってもらうと再発見もあり，新しい地域づくり，そして子どもの育成の道すじが見えてくると思う。雲南の子どもは，シャイです。もっと，高校生・大学生の方々がもっともっと，積極的に入ってもらうと，うれしいです。

小学校教職員の方から

・熟議1時間は長いかな～…と思いました。
・将来の子どもの成長を願います。ありがとうございました。
・Bチーム（かもてらす）を聞いたが，もう少し簡潔に説明をすると時間短縮になったのではないか。
・初めて参加しました。地域への思いを強く感じることができ，自分自身も子どもを教育する立場の1人として，がんばらなければならないと再確認させられました。
・熟議よかったです。
・12時までに終わっていただけると，ありがたいです。
・休日出勤については，ご一考いただきたい。時間延長についても。休日に休むのは，人としての権利である。
・トイレ休憩がほしいです。
・高校生がとてもしっかりしていて驚きました。飯南高校は県外からの入学も多いということで，島根を選んだ決め手などもう少し聞いてみたかったです。
・高校生，大学生のワークショップは，とても魅力的であると思った。ぜひ，雲南市の小中高校で，行いたいと思った。
・「地域に貢献する＝地域から出ない」ということではないと思う。他県に出ることで島根・雲南のよさや課題が見えてくると考えました。
・たくさんの意見や考えがあることがわかった。これからどう教育をみんなでしていこうか意欲がわいてきた。
・いろいろな方の発表や意見をきき，新たに意欲をもつことができた。
・今の考えに固執せず，変化を楽しむ。夢をもち，それに向かって努力することも大切だが，今，夢がなくても今すべきことを誠実にやり遂げた先に未来がある。私自身がそういう思いですごしていきたい，子どもたちに接していきたいと思いました。
・教職員用の資料は白黒でよいです。
・平日開催がいいと思います。
・COCの取り組みは，とてもよいことだと思った。
・昨年も思ったが，ここで出されたアイデアは，何に反映されているのかわからない。話をするだけで，そのために，休日なのに動員？同じ学校の者が同じグループ内にいる理由は？学校での取り組みを話し合って決めようということなのか？それは日々の職員会議でしていることで，様々な立場の意見を出し合うことが目的なら，グループ作りを考えた方がよいと思う。
・なりたい職をとおして地域に何ができるかは高校生には難しいテーマだと思うが，考える機会の1つになったと思う。ありがとうございました。
・グループ分けが中学校区毎で残念でした。幼小中連携でいつも話しているので，別の校区や地域・保護者と話をした方がよいと思いました。
・高校生，大学生の発表は，とても意欲的で，パワーを感じた。熟議は，テーマが少し難しかったが，グループの人と考えることができてよかった。
・高校生，大学生の発表がきけるのはとても楽しかったです。教職員としてだけでなく，親としても実りのあるイベントでした。ありがとうございました。

中学校教職員の方から

・島根大学との協働はとても先進的だと思いました。画期的でした。
・資料に日程表を入れてほしい（大会の主旨）。雲南市の住民でありながら何が起こっているか分からないままあまり説明のない大会の聴衆になるのはつらいものがあります。会全体の情報がなさすぎると思います。
・気軽に参加できる催し？も取り入れたら，参加者も増えるのではないでしょうか。
・おもしろかったです！
・地域に貢献する人材，言葉で聞くといい響きなのですが，基礎にあるのは資金です。お金の話になるのは嫌いなのですが何かを始めるためには費用，予算…悲しいです。雲南市で生活するためにの安定した収入の保障，育児の保障，その他諸々の保障，老後の安定，保障，これは必須アイテムではないでしょうか。
・わざわざ家庭の日にすると，教員の負担が大きい。教員の家庭や休養はどう考えるのか。動員をかけるのであれば市教研という形で平日に開催すれば良いのではないか。
・うんなん家庭の日に開催されるのであれば，もっと保護者や中学生が参加できるとよいと思います。
・飯南高校のプレゼンテーションがとても良かったです。参考になります。

高校教職員の方から

・誤字脱字が目立った。パソコンの操作スキルは，一通り全ての人ができるようにするのも，人材育成に欠かせないと思う。

大学関係者から

・雲南市だけでなく，県内の他地域へ広める必要がある。
・初めて参加したが，このようなイベントがあることを知って想像していた以上に充実した内容に思えた。

ともに未来を考える
地域でつながる私たちにできること

地域での活動を体験することによって、高校生や大学生は、どのような力を身につけていくのでしょうか。
シンポジウムでは、高校生と大学生が主体となり、地域での活動体験をもとに、グループワーク形式で対話します。また、高校生と大学生の対話を踏まえて、これからの学力、学校間の接続、地域で育てたい人材について意見交換を行う予定です。高校生、大学生、一般の方を対象に開催します。ぜひ、ご参加ください。

開催日 the date

10.16【日】

開場8:30～
時間9:00～12:35

会場	雲南市加茂文化ホール ラメール（島根県雲南市加茂町宇治303）
参加費	無料
定員	600名 ※定員になり次第申込みを締め切らせていただきます。

※申込みはFAXもしくはホームページより行ってください。
申込み締め切りは10月10日（月・祝）17:00までとなります。

プログラム program

第1部

●**オープニング** 9:00～9:20
・主催者あいさつ
・趣旨説明

●**高校生と大学生による地域活動体験発表** 9:20～10:05
発表者／大東高校生徒、飯南高校生徒、島根大学学生

【移動・休憩】

第2部

●**高校生と大学生のワークショップ** 10:15～11:55
高校生と大学生が地域での活動体験をもとにグループに分かれて意見交換します。

【移動・休憩】

第3部

●**クローズセッション** 12:05～12:35
ファシリテーター／岩本 悠氏（島根大学地域教育魅力化センター）、今村 久美氏（NPOカタリバ）

当事業は「雲南市教育フェスタ2016」と共同で開催するものです。
詳しくは「雲南市教育委員会・教育総務課」ホームページをご覧ください。

■主催：島根大学、雲南市、雲南市教育委員会 ■共催：一般社団法人国立大学協会 ■後援：島根県教育委員会

■お申込み・お問い合わせ先 島根大学 教育・学生支援機構 アドミッションセンター
TEL0852-32-6625 FAX0852-32-9726
[E-mail] admissioncenter@office.shimane-u.ac.jp [HP] http://www.shimane-u.ac.jp/

[お申込み専用HP]
http://www.leaf.shimane-u.ac.jp/enquete/no/zJvHi4QUXJ

ともに未来を考える
地域でつながる
私たちにできること
雲南市
教育フェスタ
2016
■主　催／雲南市　雲南市教育委員会
■共　催／雲南市PTA連合会
平成28年度
大学改革
シンポジウム
■主　催／島根大学
■共　催／一般社団法人国立大学協会
■後　援／島根県教育委員会
平成28年10/16(日)
雲南市加茂文化ホール「ラメール」
雲南市加茂保健福祉センター「かもてらす」

［スケジュール］

※スケジュールは予定です。主催者の都合で変更する場合があります。

9:00～ 9:20　ラメール大ホール

■オープニング

ビデオ上映
主催者あいさつ

9:20～10:05　ラメール大ホール

■高校生と大学生による地域活動体験発表

◆発表者
大東高校生徒／飯南高校生徒／島根大学学生

参加者：地域住民のみなさん、PTA 保護者のみなさん、教育関係者

10:10～10:50　ラメール大ホール

■トークセッション

◆パネリスト
小山 竜司氏（神奈川大学）
岩本　悠氏（島根大学地域教育魅力化センター）

◆ファシリテーター
今村 久美氏（NPO カタリバ）

11:00～12:00　ラメール各会場（裏面会場図参照）

■熟　議

参加者：高校生、大学生のみなさん

10:15～11:55　かもてらす（裏面会場図参照）

■高校生と大学生のワークショップ

◆コーディネーター
美濃地 裕子（島根大学アドミッションセンター）

◆ファシリテーター
中野 洋平
高須 佳奈
（島根大学 地域未来戦略センター）

12:05～12:35　ラメール大ホール

■クローズセッション

雲南市長
速水 雄一

雲南市長あいさつ

雲南市は「人口の社会増」の取り組みの一つである「人材の育成・確保」に向け、子ども、若者、大人の３つのチャレンジの連鎖により課題解決先進地を目指しています。その中で、教育分野では、「子どもチャレンジ」が、次代を担う人材育成であるとともに、持続可能な雲南市を築くための人材育成につながっていくものとして捉え、保幼小中高の一貫教育とNPO法人と連携、協働したキャリア教育への取り組みを推進しています。

今年の教育フェスタが、島根大学との共同開催により今まで以上に地域の中で多様な主体が連携、協働するきっかけとなり、チャレンジの連鎖につながることを期待し、参加される皆様の熱き想いと高き志により、ここ雲南の地から全国に向けて発信できる実り多きものになることを祈念いたします。

［講師紹介］

小山 竜司（神奈川大学　理事長付特別審議役、前まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官）

平成元年文部省（現文部科学省）入省。生涯学習局（現生涯学習政策局）、福島県教育委員会を経て、高等教育局では大学改革を幅広く担当。また、平成18年カリフォルニア大学バークレー校客員研究員。帰国後、文化庁美術学芸課長、私学部私学助成課長等を歴任。平成26年７月から平成27年１月まで内閣官房へ出向し、「まち・ひと・しごと創生本部」事務局参事官。地方創生の「総合戦略」策定に携わる。平成27年４月より、文部科学省からの交流人事として現職。

岩本　悠（島根大学地域教育魅力化センター　地域教育アドバイザー、島根県教育庁 教育魅力化特命官）

東京生まれ。学生時代にアジア・アフリカ20か国の地域開発の現場を巡り、『流学日記』を出版。その印税等でアフガニスタンに学校を建設する。大学卒業後は、ソニーで人材育成・組織開発に従事する傍ら、全国の学校や大学でキャリア教育に取り組む。平成18年から隠岐島前に移住し、地域との協働による高校の魅力化に従事。27年から島根県の教育魅力化に携わる。共著『未来を変えた島の学校―隠岐島前発ふるさと再興への挑戦』（岩波書店）。

今村 久美（認定特定非営利活動法人カタリバ　代表理事）

2001年に任意団体NPOカタリバを設立し、全国約1000の高校、約180,000人の高校生に「カタリ場」を提供してきた。2011年度に東日本大震災を受け、被災地域の放課後学校放課後学校「コラボスクール」を発案。2011年７月に１校目の「女川向学館」を宮城県女川町で開校。同12月には、２校目の「大槌臨学舎」を岩手県大槌町で開校。被災地の子どもに対する継続的な支援を行っている。現在、中央教育審議会教育課程企画部会委員。

［地域活動取組紹介］

島根県立大東高校

発表者
福間 千紘（２年）
楠　胡桃（２年）
川本 晃子（２年）

今年度、大東高校の「地域課題研究」では、２年生全員が24グループに分かれ、大東町・加茂町内の９つの地域自主組織の協力のもと、地域の課題を発見し、解決策を探る活動を行いました。夏休みには地域で様々なアクションが起こりました。地元のぶどうを使ったスウィーツを考案し地元菓子店で販売した班、子育てイベントを企画運営した班、高齢者のお宅の掃除を手伝った班などなど。本日は、佐世地区で防災をテーマに取り組んだグループが発表します。

島根県立飯南高校

発表者
村重 彩香（３年）
須藤 孝太（２年）
武田 遼平（２年）
熊代 剛琉（１年）

飯南高校のキャリア教育目標は「自らの人生を主体的に切り拓く力を身につける！」。本日の発表は飯南型キャリア教育「生命地域学」から生まれた校内クラブ活動「生命地域ラボ」の取り組み「森の学校サマーツアー」。県外の中学生に飯南町・飯南高校の良さを体験してもらうために、３泊４日のツアーを生徒が一から企画。８名の生徒がアイデアを出し合い、企画会議を繰り返し、地域住民と共に創り上げたツアー。本日はツアーの内容・苦労した点・感想や想いを発表します。

島根大学

発表者
土江 あやか
（教育学部１年）
藤井 春菜
（生物資源科学部４年）

「COC人材育成コース」１期生の１年生と、各学部での学びと研究を深めた２年生以上の学生がシンポジウムに参加しています。いずれも、山陰の文化・伝統、政策、地域課題への関心をもち、積極的に地域で活動を行っている学生です。

土江さんは、「COC人材育成コース」での学びを通して考えたことについて、藤井さんは、木質バイオマスの活用など、地域資源を活かした地域づくりについて発表します。

島根大学長
服部 泰直

島根大学長あいさつ

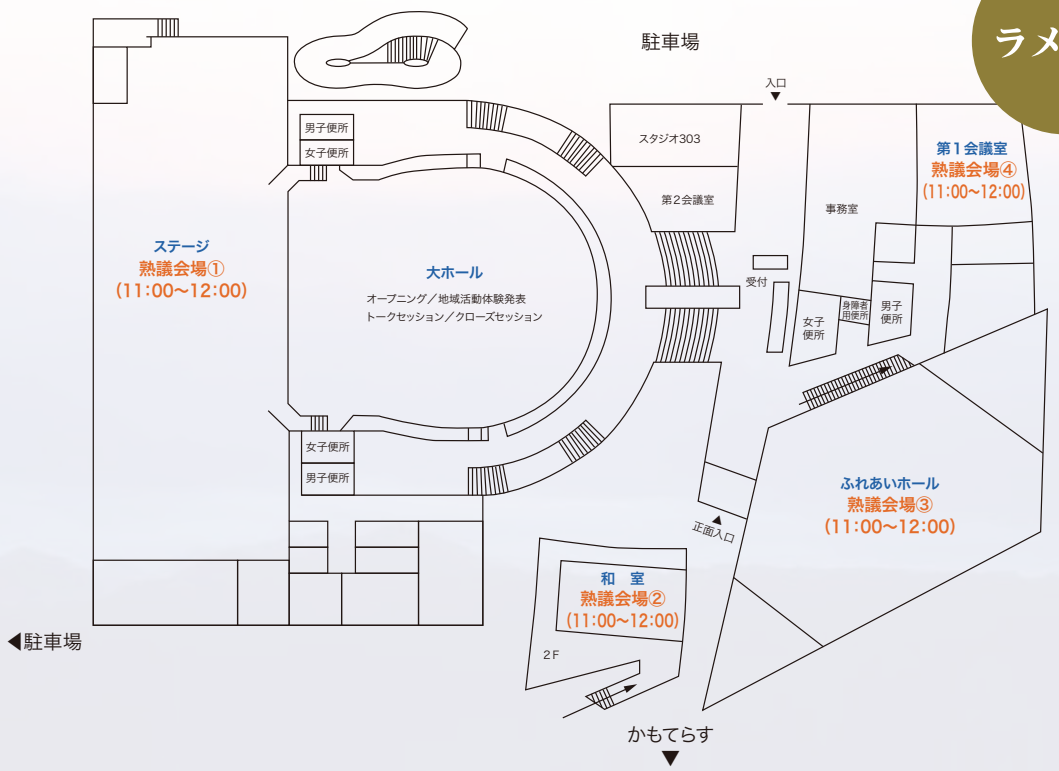
フェスタ 国立大学2016

少子高齢化が進む島根県では、地域コミュニティの支えが大きな課題であり、本学では地域貢献人材の育成を重点課題として取り組んでいます。この状況を踏まえて、高校生と大学生が地域での活動について発表し対話することを軸にしたシンポジウムを「雲南市教育フェスタ2016」と協同で開催する運びとなりました。

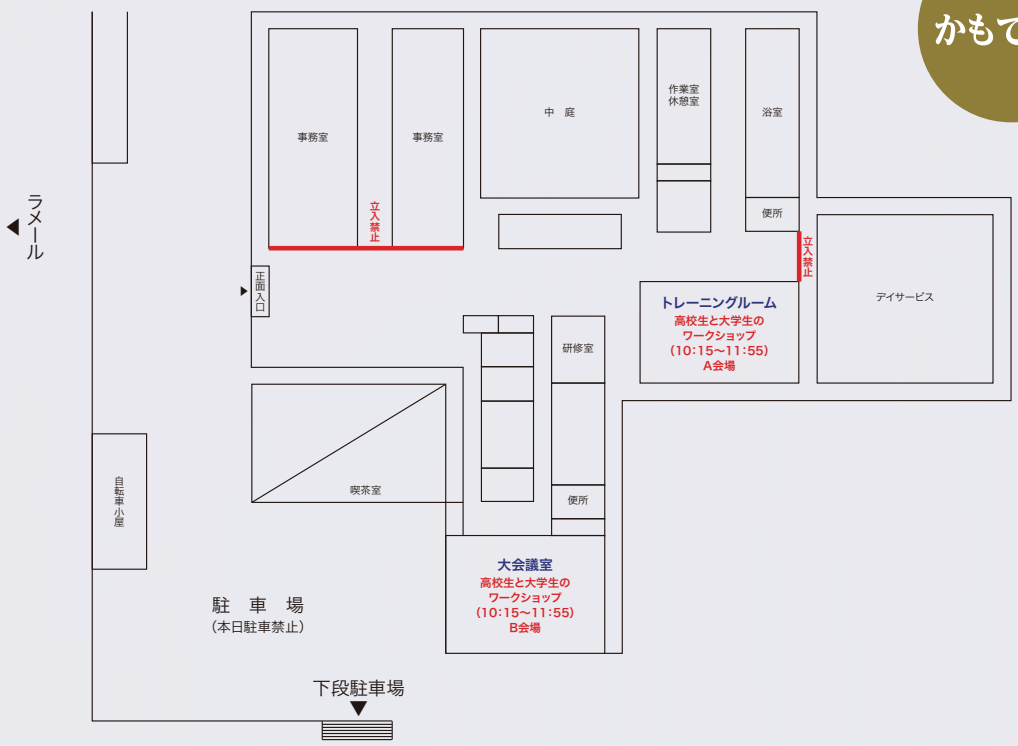
本学では、昨年度から全学部に「地域貢献人材育成入試」を導入し、また、今年度から学部横断的な「COC人材育成コース」を設置するなど、地域に関する実践的学びを強化しています。本シンポジウムでは、このコースの学生を含む本学学生と県内の高校生が対話を通して、地域課題への関心や学びの意欲を高め、さらに、皆様との活発な意見交換により、地域の皆様と意識の共有等をさせて頂ければ幸いです。本シンポジウムが実り多いことを祈念しまして、挨拶の言葉と致します。

［熟議&高校生と大学生のワークショップ　会場案内図］

ラメール



かもてらす



読売新聞　平成28年（2016）10月27日㈭

地域課題 学生ら成果発表

雲南で教育フェスタ 防災意識など

「教育フェスタ2016」と「平成28年度大学改革シンポジウム」が、雲南市加茂町の市加茂文化ホールラメールで開かれ、大東、飯南の両高校の生徒と島根大の学生が、地域課題への取り組みを発表した。

教育フェスタは今年で25年目。保育所から高校まで一貫した教育を進める雲南市と、同市と連携協定を結ぶ島根大などが開催した。全国各地の教育関係者や地域住民ら約650人が参加した。

大東高の生徒3人は、地域課題の解決に取り組むフィールドワークの授業「地域課題研究」の成果を報告した。同市大東町の佐世地区の防災意識が低いことを課題に挙げ、解決手法として非常持ち出し袋のリストを配布し、防災意識を高める講演会を開いたことを説明。「地域の方に普段忘れがちな防災に目を向けることを促す講演会が、防災意識の向上に有効だった」と検証結果を報告した。

発表を聞いた岐阜県立可児高の浦崎太郎・改革推進部長は「管轄の異なる県立の高校と市が連携し、組織的に地域教育に取り組んでいる点が先進的。生徒らの当事者意識がしっかりと育まれていると伝わってきた」と感心していた。

本シンポジウムにご協力いただいた方

【講師】

認定特定非営利活動法人カタリバ	今村　久美	代表理事
神奈川大学	小山　竜司	理事長付特別審議役 （前まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官）
島根大学地域教育魅力化センター	岩本　　悠	地域教育アドバイザー （島根県教育庁教育魅力化特命官）

【来賓】

一般社団法人国立大学協会	山本　健慈	専務理事
厚生労働省労働基準局労働条件政策課	水畑　順作	労働条件確保対策室長
文部科学省高等教育局大学振興課	荒木　秀治	大学入試室室長補佐
文部科学省高等教育局大学振興課	塩屋　仁史	大学入試室入試第一係長
島根県教育庁	片寄　　進	教育監

【共催】

雲南市	速水　雄一	市長（雲南市教育フェスタ 2016　主催者代表）
雲南市	藤井　　勤	副市長
雲南市教育委員会	太田多美子	教育委員長
雲南市教育委員会	土江　博昭	教育長
雲南市議会	藤原　信宏	議長
雲南市議会	山﨑　正幸	教育民生常任委員会委員長

雲南市教育委員会の皆さま

【取材協力】

雲南夢ネット

（敬称略）

宍道湖の夕日（島根県松江市）

撮影：荒木 秀治 氏（文部科学省高等教育局 大学振興課 大学入試室 室長補佐）

国立大学法人　島根大学 教育・学生支援機構 アドミッションセンター 編

人とともに　地域とともに
国立大学法人
島根大学

〒690-8504　島根県松江市西川津町1060
TEL：0852-32-6625　FAX：0852-32-9726
URL：http://nyucen.shimane-u.ac.jp